

THE ROTARY CLUB OF KARIYA



Weekly



創立 1954年 3月 8日
承認 1954年 3月 30日

例会日時 毎週月曜日
12:30 ~ 13:30
例会場 刈谷市新栄町3の26
刈谷商工会議所内
事務所 TEL <0566>22-2111
FAX <0566>25-2111
メール kariyac@katch.ne.jp
ホームページ http://www.kariya-rotary.com
会長 鈴木 文三郎
幹事 豊田 貴久
会報委員長 磯部 一智

2018 ~ 2019年度 国際ロータリー バリー・ラシン 会長テーマ

BE THE INSPIRATION インスピレーションになろう

この会報は、地球環境保全に考慮し再生紙を使用しています。

第3038回例会プログラム

[当年度=23回目；当月=4週目]

2019年（平成31年）1月28日(月)

1. 例会……………〈司会：プログラム委員会〉

- 12:28 1. チャイム
12:30 2. 点鐘……〈会長〉
3. 開会宣言
4. ロータリーソング斉唱……日も風も星も
5. 講師・ゲスト並びにビジター紹介
6. 食事

12:45 7. 会長挨拶並びに会長報告

8. 幹事報告
9. 出席報告
※第2四半期皆出席の発表（出席委員会）

10. 委員会報告

11. ニコニコボックス報告

12. 次週並びに次々週のプログラムの予告

(2/3) ……

65周年記念事業「めざましクラシックス in 刈谷」

13:30 ~ 13:45 例会（403・404号室）

15:00 ~ 開演（14:30開場）大ホール

於：刈谷市総合文化センター

※2月4日(月)の例会変更分です。

(2/11) ……休会（法定休日）

2. クラブフォーラム……………〈研修情報委員会〉

13:00 卓話 「愛知教育大学の教育」

講師 国立大学法人愛知教育大学

教育・学生担当理事 中田 敏夫 様

（紹介者 兵藤 文男 会員）

13. 謝辞

14. 点鐘……〈会長〉

15. 閉会宣言

13:30 16. 散会

ゲ ス ト

愛知教育大学

広報・地域連携課長 加藤 昌 様

出 席

会員総数 97名 出席免除 25名

出席義務者+免除者の内例会出席者 89名

欠席 15名 出席率 83.14%

前々回（1/10）の修正出席率 100%

会 長 報 告

- 1) 国際ロータリーより、マルチプル・ポールハリス・フェロー3回の認証ピンバッチが野村紀代彦会員、2回が岡本巧会員、1回が兵藤文男会員、今村順会員、横山宜幸会員に届きました。



2) 同じく、ポールハリス・フェローの認証バッジが、室殿豊会員、小澤陽一会員、内藤昇会員、新海伸二会員に届きました。



3) 米山記念奨学会より米山功労者への感謝状が来ています。第15回米山功労者 嶋津孝久会員、第4回米山功労者 小林祥浩会員、第3回米山功労者 吉原孝彦会員、第2回米山功労者 橋本恭典会員、岡本巧会員、第1回米山功労者 久米博明会員、加藤英樹会員に送られてきました。



幹事報告

1) 本日例会終了後に事務局にて理事会を開催しますので、関係の方のご出席をお願いします。

会長あいさつ

鈴木文三郎



今からちょうど33年前の1986年1月28日、スペースシャトル・チャレンジャー号が打ち上げから73秒後に空中分解して、7名の乗組員が死亡するという事故が発生しました。

日本時間ですと1月29日の午前1時39分ですので、生中継で見ていたかどうかは定かではありませんが、大きな衝撃を受けたことは覚えています。

私は、高度14.6kmで空中爆発して全員即死したものだと思っていましたが、その後の調査資料を読むとそうではないようです。外部燃料タンクが分解した際に内部の

燃料と酸化剤が放出され、巨大な火球が生じたのが爆発に見えたようです。

密閉用Oリングの損傷によって機体が分解した後も、乗員室自体は弾道に沿って飛び続け最高高度19.8kmに達した後に自由落下して時速333km、200G以上で海面に衝突しました。その際の衝撃で死亡したのではないかとされています。空中分解して海面に衝突するまで、2分45秒間だったそうです。この間、マイケル・J・スミス船長始め乗組員たちは何を思っていたのでしょうか。

このチャレンジャー号の乗組員の中に、日系人初のNASA宇宙飛行士 Ellison Shoji Onizuka（日本名：鬼塚承次）氏39歳が含まれていました。

オニヅカ氏は1946年（昭和21年）6月24日ハワイ島コナでコーヒー農家を営む父の鬼塚正光と母光江の間に4人姉弟3番目の長男として生まれました。父は福岡県、母は広島県にルーツを持ち、オニヅカ氏は日系3世です。

小学生の時に、ユーリン・ガガーリンの宇宙飛行を見て宇宙に憧れ、ハワイ島で地元のコナウェナ高校を卒業後、コロラド大学で航空宇宙工学を専攻。アポロ11号月面着陸のテレビ中継に影響され宇宙飛行士を目指しました。亡くなる前年の1985年にはディスカバリー号に搭乗しています。船内では、箸で日本料理を食べたり、日の丸を持ち込んだり、ハワイアン音楽をかけていたそうです。

ハワイ島のマウナケア山の標高2,800m地点には、彼の名を冠した“Onizuka Visitor Center”があり、標高4,205mの山頂へ上る前に体を慣らす場所として活用されています。私も行く度に必ず立ち寄ってオニヅカ宇宙飛行士のことを思い出しています。

ハワイ島のコナ国際空港は2017年1月「エリソン・オニヅカ・コナ国際空港」と改称され、敷地内には“Onizuka Space Center”があり、宇宙服などが展示されています。

また、父方の祖父母の出身地、福岡県うきは市に1983年に先祖の墓参りで訪れた際、中学生に「きっと夢はかなえられる」と講演した事が縁で、「エリソン・オニヅカ橋」が出来たり、「エリソン・鬼塚氏を後世に語り継ぐ実行委員会」が出来ているそうです。機会があれば訪れてみたいと思います。

「愛知教育大学の教育」

国立大学法人愛知教育大学

教育・学生担当理事 中田 敏夫 様



本学は、明治6年（1873年）愛知県養成学校としてスタートし、140年余りの歴史を持つ「教員養成」の大学です。

この長い歴史の中で、現在は、国立大学法人（平成16年～）として、新たに教員養成課程（735名）と学校現場で教員と共に「チーム学校」を支える教育支援専門職養成課程130名を設置し、有意な学生を育てています。教員就職者数は8年連続全国一を誇っています。

このような実績を持ちつつ、大学教育で現在取り組んでいるのは、「新しいカリキュラムの展開」です。特に、「現代的教育課題科目」（特別支援教育基礎、発達障害のある児童生徒理解、外国人児童生徒支援、危機管理）と、「実践力育成科目学校サポート活動、自然体験活動、企業体験活動、多文化体験活動」です。最近の学校現場で求められる実践力のある教員を育成することを目標としています。

2014年後藤学長の着任以降、愛知教育大学の施設整備も毎年充実しています。「教育未来館」の新設、美術棟の改修、教育交流館の改修、AUEスクエアのオープン、付属図書館の竣工、「AUE セミナーハウスの竣工、第1人文棟の改修と重ね、来年度にはイノベーションセンターの竣工、「国際教育棟」の竣工を予定しています。

また、学生への教育支援として、「なんでも相談室」の設置による学生の生活面を中心とした支援、AUEチャレンジプログラムの実施による学生のスキルアップ支援を行っています。

これからの大学は、高度化をキーワードに、教職大学院の改革、博士課程のEd.D型博士課程への改革を図ります。今後広域拠点型大学として、益々発展をしていくことを目標としています。

I 会長挨拶 〈会 長〉

II 議 題

1. 2・3月のプログラム（案）について
 - 〈クラブ奉仕委員長〉
 - 〈プログラム委員長〉

2. 第15回刈谷音楽祭後援名義使用について
 - 〈社会奉仕委員長〉

3. その他

III 会場監督の所見